

## 委員会報告

# 土木計画学研究委員会の活動状況

## ACTIVITIES OF THE STUDY GROUP ON INFRASTRUCTURE PLANNING AND MANAGEMENT

土木計画学研究委員会

*The Steering Committee of the Study Group on Infrastructure Planning and Management*

### 1. 活動の基本方針

昭和60年度土木計画学研究委員会は昭和60年6月より、委員長 菅原 操、副委員長 加藤 晃、幹事長 須田 熙の新社役のもとでスタートしました。土木計画学研究委員会も20年の歴史を経て、委員会活動も年々盛んになり、“土木計画学とは何か? ”、“土木計画学とは学問か?” などといわれた10数年前と比較して、隔世の感があります。

特に昭和58年度、昭和59年度にはさらなる大改革が前委員会によってなされ(土木学会論文集 第353号/Ⅳ-2 1985年1月参照)土木計画学研究委員会の活動も安定成長期への第一歩を踏み出しました。この改革を引き継いだ新社役を中心とする新委員会はこれらの状況認識のもとに、前委員会の活動方針を堅持し、地味ではあるが、この活動を安定軌道に乗せ、持続することを基本方針としています。

### 2. 土木計画学研究発表会

土木計画学研究委員会の最大の活動であるこの発表会は、本年1月の佐賀大会で第8回を数えます。発表論文数も102編を数え、高い水準で安定しています。また昭和58年度から発足した土木計画学研究、論文集3号にも36編の応募があり、査読の結果、20編が合格し、同誌に掲載されています。この論文集の編集小委員会も3年目に入り、第1回の委員の交代が行われ、5部門のそれぞれに1名ずつ新委員が任命されました。今回の論文集では招待論文として竹内伝史君、屋井鉄雄君の論文2編が掲載されています。

なお第9回の土木計画学発表会からは北国でも開催で

きるよう、大会日程を12月上旬ないしは中旬に変更することとなりました。その1回目として、第9回発表会は、本年(昭和61年)12月に北見工業大学で開催することが決定しております。このため、論文の申し込み、締め切りの時期も順次早まることとなりますので、会員諸氏にあつては、学会誌の会告に十分注意されるようお願い致します。

### 3. 分科会活動およびワークショップ

土木計画学研究委員会の重要な活動として分科会活動があることは前号でも述べられておりますが、必ずしも会員諸氏に理解が行き届いていないようですので、ここでそれを再掲します。すなわち、土木計画学研究に興味をもつ研究者または実務者より提案され、かつ、委員会により望ましいと認められた課題に対して研究分科会を設け、これが定常的な活動を行います。研究課題としては種々のものが提案されますが、次の3つの範ちゅうに属する課題が望ましいとされています。

- ① 当面集中的にかつ体系的に研究を推進する必要があると認められる学術的課題。
- ② 研究成果の体系的蓄積化あるいは計画技術化を図るべき課題。
- ③ 土木計画学の有用性が社会的に認識されるような応用課題。

この結果として、現在次の7つの研究分科会が設置され、広範な活動が実施されています。

1. 公共投資研究分科会
2. 海外交通 F/S 研究分科会
3. 交通ネットワーク研究分科会
4. 地方都市交通研究分科会

5. 水辺の景観研究分科会
6. 土地利用研究分科会
7. 土地開発プロジェクト研究分科会

これらの研究分科会には分科会主査および幹事をおき、メンバーはオープンショップ制として希望者はすべて参加できるようになっております。分科会は一応3年をめどに活動するものとし、その間の連絡通信費等は学会より支給されます。そして、この3年の間にシンポジウムあるいは講習会の開催を担当し、各分科会での活動成果をそのような形で世に問うことにしています。また、研究分科会のほかに会員が自由に組織して活動できるワークショップも設置されており、現在活動中または準備中のワークショップには以下のものがあります。

1. 交通にかかわる事業化制度ワークショップ
  2. ハイブリット型計画モデルワークショップ
  3. 高齢・身障者と都市整備ワークショップ
  4. 計画代替案作成と評価ワークショップ
  5. 認知心理学の土木計画への応用ワークショップ
- これらの研究趣旨に賛成の方は是非ご参加下さい。

#### 4. シンポジウムおよび講習会

シンポジウムおよび講習会は昭和59年度から、各研究分科会がその成果を問うという形で実施されてきました。昭和60年度は11月から61年1月にかけて景観研究分科会が“街路の景観設計”と題して東京をはじめ大阪、福岡、札幌の4都市で行いました。このように多地域での講習会の開催は初めての試みであります。また昭和61年度の講習会は海外交通F/S分科会が、“海外交通プロジェクトのフィージビリティスタディー”に関する講習会を予定し、鋭意研究中です。シンポジウムは昭和60年度は12月上旬に“社会資本整備の財源”と題して公共投資分科会が実施しました。シンポジウムは先に述べたように研究分科会が中心となって行うもので

が、昭和61年度は土木計画学研究委員会の20周年でもあり、特別な記念シンポジウムを計画しました。主たる内容は以下のとおりで、詳細なプログラムは学会誌の3月号以降の会告に掲載する予定です。

#### 20周年記念シンポジウムの概要

記念シンポジウムは大きく次の2項目に別れています。

1. 土木計画を取り巻く20年の歴史とその総括。
2. 土木計画学の20年の歩みと将来展望。

ここで1. は土木計画の内外の識者を一堂に集めて、講演とパネルディスカッションの形を採ってシンポジウムがなされます。2. は土木計画学に携わってきた、また現在携わっている人々を一堂に集め土木計画学の創成期から、その将来展望に至るまでを、総括するものです。概略の目次は以下のとおりです。

第1日目 大規模プロジェクトの現代史的意義

新幹線 高速道路 空港 港湾

第2日目 社会的ニーズの変化と土木計画の対応

第3日目 土木計画学20年の歩み

土木計画学の創成期 土木計画学の過去、現在、未来

#### 5. おわりに

土木計画学研究委員会はこのほかにも、土木学会論文集第IV部門の編集を始め多くの活動や学会全体に対する土木計画学としての役割を担っています。このような活動は一委員会の委員や幹事の努力によってなすことはできず、会員諸氏の積極的な参加によってのみなされると考えます。皆様のご協力を紙面を借りてお願いし、委員会の活動報告とさせていただきます。なお本文は稲村肇委員兼幹事の協力のもとに、幹事長 須田 熙の責任下において記したものです。

(1985.11.30・受付)